

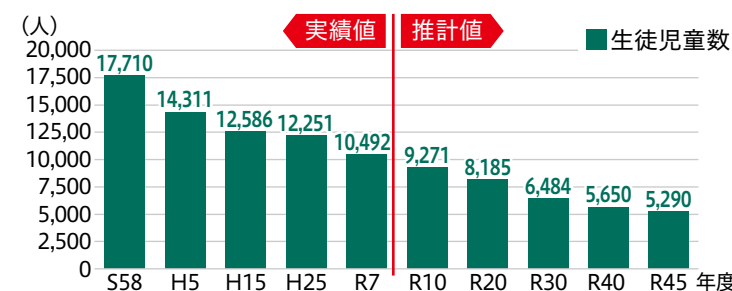
市立小中学校の現状と課題

市内の小中学校において、早急に解決すべき課題は左記のとおりです。課題を解決し、より良い教育環境を実現するためにも、学校再編を進めていく必要があると考えています。



市内の児童生徒数の推移

桑名市の児童生徒数は、今後も減少する予想です。また、市内の出生数について、令和7年度の出生数は市が打ち出す、人口減少対策パッケージによる、移住施策や子育て支援施策などの人口減少対策に資する取り組みの効果の兆しが見え始め、9年振りに昨年度比出生数が増加に転じました。しかし、依然として低い水準が続いています。



児童・生徒数の推移

(人)	日進小	精義小	立教小	城東小	益世小	修徳小	大成小	桑部小	在良小	七和小
小学1年生	29	25	19	9	64	40	77	36	52	54
0歳児	43	25	9	11	56	44	61	18	51	37
	久米小	深谷小	城南小	大和小	大山田東小	大山田北小	大山田西小	大山田南小	藤が丘小	星見ヶ丘小
小学1年生	45	15	52	14	121	50	16	45	45	45
0歳児	28	9	57	15	44	33	6	16	40	25
	多度東小	多度中	多度北小	多度青葉小	長島北部小	長島中部小	伊曽島小	合計	全体で 270人強 減少	
小学1年生	8	48	5	9	18	50	13	1004		
0歳児	1	34	7	7	9	31	14	731		

全体で270人強減少

小中一貫教育の充実

小中一貫教育の目的は、小学校と中学校9年間の教育活動をスムーズにつなぎ、子どもたち一人一人の成長をしっかりと支えることにあります。小中学校がしっかりと協力し、9年間を見通した学習や活動を行うことで、子どもたちの学びや成長をより効果的にサポートしていきます。市では令和2年度から施設分離型（小学校・中学校）で小中一貫教育を実施しており、これまで学習面や生活指導面において一定の効果が見られています。一方、施設分離型であることで、教職員間の連携において、移動を含めた打合せ時間の確保などの課題が生じています。

小学1年生と0歳児実数の比較（令和7年4月時点）

よくあるお問い合わせ

桑名市は2000人を超える大規模小中一貫校を作るって本当？

市としては、2000人を超える小中一貫校を建設するとの発言はしていません。「1学年あたり23学級、1学校あたり600〜1000人程度を適正規模と考えています。仮に学校再編を進める過程において、望ましい学校規模とならない場合には、校舎の建て方や運営方法など、教育活動に支障がないような工夫をしてお応じします。」

児童が少ない小学校同士の統合ではダメなの？

小学校同士の統合では「分散進学の解消」や「小中一貫教育の更なる充実を図る」ことが困難であり、また子どもたちの心的不安も大きくなることが予想されるため、現状市としては考えていません。しかし、再編計画を進めていく過程で、統合を希望する地域からの要望があった場合は、段階的な再編の一部として小学校統合の検討を否定するものではありません。

小規模学校の方が子ども一人一人に指導が行き届くのでは？

小規模学校には「質問のような利点がある」と言われていますが、一方で左記のような小規模に起因するさまざまな課題があると考えています。

○学校運営上の課題（指導が一人一人の経験・力量依存になりやすい。ペテラン・若手の配置バランス指定が困難で、運営負担が増加。）

○学習面における課題（班活動のグループ構成が固定化しやすい。工夫できる学習形態（授業スタイル）に制限が生じる。）

○生活面における課題（人間関係が固定化しやすく、トラブルがあった際に、心理的ストレスから不登校につながったり、長期化しやすくなる可能性がある。）市としては小中学校の再編により、教員数が適正化されることで学年ごとの教員数が確保され、複数の教員が子どもたちを支援するチーム体制を整えることができ、よりきめ細やかな指導を行うことができると考えています。

10月1日オープン！ ひきこもり地域支援センター 「みなポート」

いつ来ても、いつ帰っても大丈夫な場所
過ごし方は自由！
何もしなくても大丈夫



「みなポート」の名前について

多くの船が行き交い、入港し、留まり、また出航していく「港」のように、多くの人が出会い、新しいものが生まれる場所であってほしい
——そのような思いが込められています。

社会福祉法人明健福社会 理事長からのメッセージ

このたび、10月1日に「ひきこもり地域支援センター」と「児童発達支援施設」を開設する運びとなりました。私たちは、一人一人が安心して自分らしく過ごせる居場所づくりを大切に、ご本人やご家族の思いに寄り添いながら、それぞれの歩みに応じた支援を提供していきます。ひきこもり支援では、社会とのつながりを無理なく育み、新たな一歩を共に考える支援を、児童発達支援では、お子さまの可能性を大切にしながら、健やかな成長を支える環境づくりに努めます。地域の皆さまや関係機関との連携を深め、信頼される施設をめざして職員一同誠心誠意取り組んでいきます。



近年、周りとのつながりが希薄になる中で、孤立やひきこもりは誰にでも起こりうる身近な問題となっています。全国調査では約50人に1人が直面しているとされ、決して特別なことではありません。

市では、そんな孤立を防ぎ、誰もが安心してつながれる場所として、ひきこもり地域支援センター「みなポート」を開所します。

同センターは、社会福祉法人明健福社会が旧子育て支援センター「キラキラ」跡地を活用し、児童発達支援施設と共に運営する複合施設内に開設されます。

Q. 誰が利用できるの？

A. 市内在住の、ひきこもり状態にあるご本人やご家族、関係者などです。

Q. 何をするとところ？

A. ①相談支援（無料・秘密厳守）：電話、来所、訪問による相談窓口です。②居場所（開館時間内常時利用可）：「ひとりではない」と感じられる安心して過ごす場所です。調理や軽スポーツ、テレビゲーム、手芸、スイーツ作りなどのカフェ活動を開催予定です。自分のペースでゆったりと交流ができます。（材料費は実費）③家族会・当事者会の開催（月1回程度）：同じ悩みを共有し、支え合える座談会です。

ひきこもり地域支援センター「みなポート」

場所 東方301-4
開館時間 月～金曜日 9:00～16:00（祝・年末年始除く）
問 ☎86-7662

ひとりで抱え込まず、まずはお気軽にご相談・お立ち寄りください。

問 学校再編推進課（☎ 24-1354 FAX 24-1358）